

交換留学体験談作文

2018年07月31日

台湾 国立台湾大学 楊雅茜

交換留学の一年間はつかの間でした。去年の十月には、よく校内で迷子になった私が、今この交換留學生活の終わりを迎えます。この一年間で、学習や寮での生活、サークル活動、旅行など、いろいろな体験をし、忘れがたい思い出をもらいました。これから四つの部分に分けて回顧していきたいと思います。

まずは大学内の勉強についてです。私は主に日本語・日本事情の授業と、文教育学部の人文科学科・比較歴史コースの授業を取っていました。今学期取った中上級会話で、日本語を使ってディベート試合をやりました。資料を探して、原稿を作成するのは容易ではなかったですが、その代わりに達成感も大きかったです。また、前の学期取った日本事情演習Ⅱでは、小学校への訪問が行なわれて、日本の小学校の様子を覗くことができ、非常に貴重な体験でした。学部の授業では、LA 演習、日本史論文講読や指導教員のゼミから、日本歴史と関わる史料と先行研究を多く触れて、日本で勉強するならではの勉強になりました。お茶の水女子大学の授業は少人数で行われることが多く、先生とほかの学生さんとちゃんと討論ができ、勉強にとって素晴らしい環境だと感じます。もし機会があれば、少なくとも一コマの演習型授業を取るのを勧めます。

次に、寮での生活は、私の交換留学のもう一つ重要な部分だと思います。台湾でずっと実家で暮らす私にとって、大山寮での生活は初めての一人暮らしです。部屋の掃除、洗濯、毎日の食事など、全部自分の手で完成するによって、留学の前と比べるとより自立していると感じました。寮のキッチンで友達と一緒に料理パーティや茶話会をするのが新鮮で、楽しかったです。キッチンで料理をするのも、ほかの部屋の皆さんと友達になるきっかけになりました。また、この一年間大山ハッピーロードで食材を買って様々な料理を挑戦し、自分もすこしだけ料理ができるようになりました。このように、実際に外国で暮らして、その場所の生活スタイルを体感するのも、交換留学の重要な価値だと感じました。

続いてはサークル活動ですが、私は今学期からお茶の水女子大学のバレーボール部に入りました。毎週の月・水・金曜日は大学の体育館で練習しています。関東大学バレーボール連盟の春リーグも部活の皆さんと一緒に試合に出ることができ、これからも夏の合宿に参加する予定です。今学期バレー部の活動を通じて、好きなバレーボールをしながら、部活の皆さんと友達にもなって、さらにお茶大の部活の雰囲気を経験することができ、充実でした。お茶大の部活と私が台湾で参加した部活は、みんな一緒に頑張る雰囲気や、チームのために戦術を考えると似ていますが、メンバー間の付き合い方や練習のやり方は違うところもありますので、こういう違いを味わえるのも楽しかったです。

最後は旅行など、学校以外の生活です。春休みの時、私は広島市が開催した

留学生プロジェクトに参加して、その後九州へ一人旅をしました。広島で念願の原爆資料館を見学して、熊本で震災後の熊本城の姿とともに綺麗な桜を見ました。また、ゴールデンウィークの時、友達と一緒に富士山河口湖に行って、素晴らしい景色を堪能しました。ほかに京都、神戸、東京近くの川越、横浜、東京都内のスポットなど、いろいろなところに行きました。交換留学の楽しさを感じるのには学校の中だけではなく、足を運んで旅に出るのも大事だと思います。

色々な体験をして、様々な人たちと出会って、この一年間は本当にあっという間に終わります。交換留学の短さは、少し寂しいですが、短いこそこの時間を大切に、充実した生活を過ごすことができました。台湾に戻っても、お茶の水女子大学で過ごした時間、出会った人々を忘れません。これからも交換留学で得た経験を生かしていきたいと思っています。



友達と寮のキッチンで作ったおでん



熊本城の桜



バレー部の皆さん